

# 台原地区社協だより

第 24 号

令和2年5月1日発行

台原地区社会福祉協議会

発行責任者

台原地区社協だより

編集委員会

## 安全・安心のための地域力を図る

台原地区社会福祉協議会 会長 安 積 惇

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大し、児童・生徒の学校休校の措置が図られ、不要不急の外出自粛の要請がなされました。また、東京五輪の開催延期がきまるなど日々多くの変化があります。

私たちの生活も情報を正確に確認しなければなりません。

一方では、高齢者の認知症問題・少子高齢化・いじめ・引き籠り等深刻な課題が山積みになっている今、社会福祉協議会の果たすべき役割も極めて大きいと実感しております。

社協だよりでは、台原地区の一人、一人が安全・安心なよりよい日常を過ごすために、地域の福祉活動等についてご紹介をさせていただきます。



### 心配になったときの相談先

## 台原地域包括支援センター

地域包括支援センターは、急激に少子高齢化が進む中、平成18年度に創設された制度です。

当センターは、仙台市社会福祉協議会が仙台市の委託を受け、台原中学校区域を担当し、次の業務を行っております。

業務内容は

- ①保健・医療・福祉等、生活全般に関する相談対応
  - ・健康づくりや医療・介護、認知症に関すること
  - ・相談内容に応じて公的、その他関係機関との連携に関すること
- ②介護予防・介護予防サービス利用に関する相談対応
  - ・要支援の方等の介護予防ケアマネジメントに関すること
- ③認知症や高齢者虐待等、権利擁護に関する相談対応

平成28年度から、センターの機能強化のため、機能強化専任職員1名が配置され、センター独自に地区担当制を敷き、地域での支え合いネットワークの仕組みづくりを推進しています。

〇地域の仕組みづくりの活動として、次の内容を行っています。

- ・地域のサロン・老人クラブ等集いへの支援
- ・認知症の理解の普及・啓発
- ・介護予防教室の開催
- ・介護予防自主グループの支援

当センターでは、毎月約320人の方のケアマネジメントを行い、月平均90件ほど上述の①～③のようなご相談をお寄せいただいております。

もし、皆さんが体力や判断能力の低下などを感じたとき、災害・その他何かお困りのことがありましたら、ぜひ当センターにお電話をいただければ幸いです。

心配ごとを伺い、お話をすることで困りごと解決の方法を見つける場合が多いと感じています。

当センターでは、これからも各団体や地域の皆様と手を携えながら、よりよい地域づくりに向けて活動を推進してまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。



住所：青葉区台原森林公園1-3

台原老人福祉センター1階

電話：727-5360

# 民生委員の地域活動

台原地区民生委員児童委員協議会 会長 児 玉 睦 子

台原地区民生委員児童委員協議会（台原地区民児協）では、令和元年12月の一斉改選により、6名の委員が退任し、新任委員を5名迎え、計25名で活動しております。地域の方々が穏やかに安心して暮らせるよう、常に気を配りつつの活動です。

お一人暮らしの高齢者・高齢夫婦・高齢世帯の方々の見守りや、サロン活動を行っております。70歳以上のお一人暮らしの方々を対象にした「すみれ会」（台原地区社会福祉協議会と台原赤十字奉仕団と共催）にも関わっています。

仙市民生委員児童委員協議会の地域特別委員会において「児童委員活動の強化方策」について方向性が決まり動き出しております。今年度は、台原地区民児協も児童福祉に力を入れていきます。

台原地区民児協では、

- 「母親向けお茶会」 児童館と共催で、子育てに奮闘中の母親に癒しの時間を過ごして頂く。（託児有）
- 「親子でお茶体験」 小学生と親とで茶道を体験し、伝統文化を学びながら絆を深めて頂いております。
- 「登下校の見守り」 学校ボランティア防犯巡視員に、全員が登録し、登下校の見守りを始めております。

主任児童委員が中心となり

- 「おしゃべり広場」 台原児童館で未就学児をお持ちの保護者の方々の相談にのっております。
- 「授業等のサポート」 台原小学校の要請により、授業等のサポートをしております。

登下校中の小学生の痛ましい誘拐殺人事件が起きて物騒な最近、台原小学校の登下校の見守りが重要であると考え、新年度からは、小学校と相談の上、ご協力いただいている地域の方々と共に組織化していこうと考えています。

台原地区民児協は担当地域に於いて、日々活動しています。

どんなことでもお気軽にご相談下さい。

なお、担当の民生委員が分からない場合は、地域の町内会長さんにお尋ねください。



「親子でお茶体験」の様子



「おしゃべり広場」の様子

## 登下校の見守り活動を続けて

台原地区民生委員児童委員協議会 副会長 堀 籠 一 豪

近年児童、生徒が巻き込まれる事件・事故が全国的に多発しています。この台原地区でも昨年2歳児が母親の育児放棄による餓死や台原森林公園内で変質者の出没等、事件事故が発生しています。

新型コロナウイルスのため2月下旬より学校が臨時休校となり、保護者の方々のご協力により子供達の姿を見かけなくなりました。今後も、見守り活動を町内会・PTA・各地域団体と共に体制強化をしていきたいと思っております。

一昨年、新潟市で小学生の女儿が殺害された事件の翌日、近隣の小学校の通学路を見てみると上杉山通小学校・旭ヶ丘小学校では多数の地域防犯の方・PTAの方が見守りをしていました。台原小学校地区もそうありがたいですね。

## 今、求められる「地域」の力 ～学校と地域、協働の動きへ～

台原地区民生委員児童委員協議会 主任児童委員

台原学校支援地域本部 スーパーバイザー 遠 藤 みち子

台原に住み始めて13年、ここで3人の子どもを育ててきました。今年、成人式を迎えた次男が小学生だった頃、学校の教育活動において、地域の方が関わることは、ほとんどなかったように思います。しかし、この5～6年の間に、教育の現場は大きく様変わりしてきていると感じています。そのひとつに、地域の方が学校に関わることが増えていることが挙げられます。仙台市は、全ての学校教育の基盤を「地域とともにある学校」と掲げていますが、それがここ台原でも確実に浸透してきているのです。

台原小学校では、学校と地域をつなぐ窓口の役割の学校支援地域本部が6年前に立ち上がり、学校の求めに応じ、教育活動を支援するため、地域のボランティアをコーディネートします。

具体的な支援活動としては、家庭科授業の見守り、小1サポート（新小学1年生が安心して学校に慣れていくように見守る）、登下校の見守り、放課後教室における将棋や折り紙の講師など多岐にわたります。



学校支援ボランティアとして、民生委員の方、地域にお住いの多くの方々、学校に出向き、子どもたちと関わり、地域の中で台原の子どもを見守り育てよう、という取り組みが進んできました。

学校は「地域」の力を求め、「地域」はその求めに応じ支援しています。そうした活動は、「地域」の方にとって、やりがいや自己有用感を感じる機会となり、また地域のネットワークが広がり、「学校を核とした地域づくり」につながります。その中で、地域が学校を支援するという一方通行ではなく、地域にとってもメリットがある、双

方向の協力が生まれ、学校と地域が協働して活動していく下地ができつつあると感じています。

令和5年度には、仙台市の全校において「コミュニティスクール（学校と地域が力を合わせて学校の運営に取り組む）」の実施が検討されているとのこと、今後、さらに学校と地域の協働した動きが加速されていくでしょう。

最後に、今どきの子どもたちは、核家族、また保護者の就労等により、人との関わりが少なく多忙な家庭生活の中で、本来、家庭で育まれるべき力を十分に身に付けられないまま、小学校に入学している現実があるように思います。

そんな状況の中、保護者や教師以外の「誰か」に気にかけてもらい、言葉を交わし、関わりを持ってもらう、その「誰か」がまさに「地域」の方なのだと思います。

台原の子どもが健やかに育っていけるよう、「地域」の力を合わせて見守っていきましょう。



## 地域福祉活動のキーワード

### 地域の福祉の担い手「福祉委員」

福祉活動推進員 会長 高橋 洋子

皆さんは「福祉委員」の役割を御存知でしょうか。

福祉委員とは、町内会毎に1名以上が担当し、地域の福祉活動を行い、また地域の安全を見守る役割を担っています。

私自身は、10数年来「民生委員児童委員」として地域を担当させていただいておりますが、「民生委員」や「児童委員」というのは、自分の住んでいる町内以外にも複数の町内を担当しております。そのため、各町内会の細かい部分までは目が届かない場面もしばしば出てきてしまいます。そのような場面で、福祉委員の方々の力が重要となってきます。町内会の現状をより詳しく把握されている福祉委員だからこそ気づき、的確に対応できることが多くあるのです。

例えば、町内会の〇〇さん宅の電灯が数日間点灯していない、逆に点灯し続けている、はたまた郵便物がたまっているなど異変にいち早く気づき、安否確認をとることができるのです。また安全面に留まらず、福祉委員を中心としてサロン活動を積極的に行なっている地域もあるのです。

実際に、私は民生委員として現在、自身の町内会の他に2つの町内会も担当させていただいております。残念ながら、その2つの町内会に福祉委員はおりません。もちろん民生委員として、その2つの町内会および住民の方々のことを十分把握しているつもりではありますが、日々の生活の細部まで目を配ることができない場合もあります。その度に「福祉委員の方がいてくれれば」と切実に感じてきました。

私の担当地区のみならず、このように福祉委員が不在の町内会には他にも多く存在している現状にあります。また、福祉委員が存在していても、町内会役員とうまく連携が取れていない町内会も多くあります。超高齢者社会で今後も高齢者人口が増えていくと予想される現代において、私達と大切な家族がより安心して暮らしていけるように、各町内会役員-民生委員-福祉委員とが密に連携・協力し地域に貢献していきたいと思っております。全ての町内会において、福祉委員担当者を立てていただけるよう御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

## 地域の防災対策と避難所運営について

台原平林町内会 会長 國分 敏男

平林町内会の地域の防災対策を紹介させていただきます。

毎年、東部町内会、平林町内会、東照宮マンション自治会が五城中学校を会場に地域合同防災訓練を実施しています。指定避難所運営準備委員会を年2回実施し、規約、役員、構成委員等の確認、地域防災訓練の日程、内容を検討します。市より避難所担当職員、指定動員が出席し行政との連携を図り協議します。全体の代表者は町内会長が務めます。

**活動班**（各町内会から選出された3名が下記の部に所属して避難所運営に必要な活動を実施します。）

- |          |                         |
|----------|-------------------------|
| 総務部（名簿班） | 安否確認などに必要な名簿作成          |
| （総務班）    | 避難所のルールの掲示、防犯・防火のための見回り |
| （情報広報班）  | 区災害対策本部への報告や要請などの発信     |

**生活部**（食料・物資班） 食料・物資の必要数の把握、管理、配布などが主な役割  
 （救護班） けが人への応急手当や緊急時の救急要請  
 （衛生班） トイレの確保、ペット連れ避難者への対応、水の確保、衛生環境の整備等

災害が発生したら町内会で声掛け、安否確認、避難の支援等地域での助け合い（共助）を行い、一時避難所（各町内会で決めている公園、駐車場等）に避難し、町内の安否・消火、救助活動、町内の被害把握、応急手当を行います。

市からの避難勧告、避難所開設要請があった場合には、五城中学校へ避難し、地域団体は校庭に待機します。市の避難所担当職員は避難の状況や施設の安全状況を確認後、避難者を体育館に誘導し、避難所が開設され運営されます。



トイレの組み立て訓練

避難者を体育館に収容した後、最初に行う事は、避難者を町内会毎に集めます。

**総務部**は、避難所運営に必要な活動を実施します。避難者数を把握するために受付名簿を作成・けが人の確認・救護活動等を行います。

**生活部**は、避難所生活に欠かせない簡易トイレの組み立て、簡易段ボールベットづくり、また、水やアルファ米等の食料配布等の準備を進めます。

大災害が起きると避難所運営に当たって自治体職員は頼れなくなります。学校教職員は学校業務や授業再開に向けての諸準備が優先となります。自助、共助を踏まえて

地域住民が中心的な役割を担うことになり、普段からの準備、打ち合わせ、諸団体との連携を図っておくことが大変重要です。

災害が発生しますと誰でもがパニックに陥り、次の行動がなかなか取れないものです。

非常時に備え強く求められることは、地域がまとまって行動が取れるよう避難所運営の向上を目指すことです。



救助活動の訓練

## 第45回「台原すみれ会」の開催

台原赤十字奉仕団 団長 児玉 静 夫

令和元年9月19日恒例の「台原すみれ会」150名皆様の参加者により開催いたしました。台原地区社会福祉協議会、台原赤十字奉仕団と台原地区民生委員児童委員協議会の共催により、台原地区に居住の70歳以上の一人暮らしの皆様を対象に毎年この時期に実施しております。

当日は、講話「人生100年時代・元気に防災対策」、フルート演奏「楽団一人」、食事会、ビンゴゲームや参加者全員で合唱等を行い仲秋の一日を楽しんでいただきました。

今年度の第46回「台原すみれ会」は、9月中旬を予定しています。ご参加お待ちしております。

### 掲示板

## サロン「あおささ会」の活動について

北根地区親和会 理事 穴戸 祐子

サロン「あおささ会」は、北根地区親和会にある青笹不動尊に由来した名称です。

地域包括支援センターの支援と地域の住民とボランティアの皆様の協力をいただき、毎回楽しい会になるように工夫し、仲間づくり活動をしています。

地域で交流の場を設けることにより、住民同士の関わりを深め、サロンに来る人たちの健康、助け合いの精神を育むことを目標としています。

主な活動は、運動不足解消や生活習慣病の予防のため、ビデオを見ながらのラジオ体操、孤独感の解消やリラックス効果が得られる音楽レクリエーション、指先を使った脳トレの折り紙などです。昨年は、「自分でできる足つぼマッサージ教室」を開催し、参加者は今後の効果を楽しみにしています。

サロン「あおささ会」は、月一回・数時間の活動で負担なく気軽に参加できることです。会員が増える事を願っておりますので、近隣の皆様もお気軽にご参加ください。

開催場所 北根地区親和会集会所（毎月 第3・第4どちらかの金曜日です。）

詳しくは、電話をいただくと幸いです。（☎ 272-8075 穴戸）



足つぼ教室

### 令和元年度 会費・協力金 ご協力ありがとうございました。

**社会福祉協議会費**  
 （台原地区社協扱い分）

3,128件  
 1,046,600円

**赤い羽根共同募金**  
 （台原地区募金会扱い分）

2,204件  
 1,177,634円

**日本赤十字社資**  
 （台原地区奉仕団扱い分）

1,606,400円

ご賛同頂きました会費・協力金は、それぞれの機関に納入いたしました。  
 ご支援心より感謝申し上げます。

### 編集後記

新型コロナウィルスの感染拡大防止のため不要不急の外出自粛要請という、平年とは異なる新年度を迎え、安全・安心な日常生活の重要性を改めて考えさせられました。

会報発行にあたりご協力いただきました皆様、誠にありがとうございます。